

第1部 シンポジウム：現代韓国社会における生活文化の研究とその方法

雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	44
ページ	11-18
発行年	2003-12-26
URL	http://hdl.handle.net/10502/1606

国立民族学博物館研究フォーラム促進プログラム

平成 14 年度国際シンポジウム

現代韓国社会における生活文化の研究とその方法
『2002 年ソウルスタイル——李さん一家の素顔の暮らし』展を通して

プログラム

日時：平成 14 年 7 月 13 日（土）～14 日（日）

会場：国立民族学博物館・第 4 セミナー室

シンポジウムの趣旨

2002年「日韓国民交流年」を記念して、本館において開催した特別展「2002年ソウルスタイル——李さん一家の素顔の暮らし」は、ソウルに居住する「李さん一家」の家族成員の生活空間と、韓国社会に暮らす人々の一生を17のトピックスに分けて現在の韓国社会の生活文化を表現した。ことに、この展示の基礎とした「李さん一家」の生活財調査は、現代韓国社会のチブ（イエ）に関する貴重なデータである。この三千数百点におよぶ生活財データは、展示において最大限に活用され、貴重な資料として保存されるが、展示・記録に終わらせずに、さらに研究に活用されることが望まれよう。

本シンポジウムでは、これまでの生活財調査とは異なる「李さん一家」の生活財調査によって得られたデータを中心に、韓国の物質文化研究者を招き、共同研究「韓国現代生活文化の基礎的研究」の共同研究員とともに、韓国社会における生活財調査による生活文化研究について議論をすることを目的とする。まず、このデータから何が読みとれるのかを検証し、このデータを韓国社会における他の事例と比較することで、チブ研究にどのように活用させることができるかを検討する。これをふまえて、両国の研究者により共同で調査データが補充されれば、今後のチブ研究および生活文化研究のさらなる展開が期待できよう。

また、日韓両国の文化はサブカルチャーを回転軸として急速な相互浸透を果たしつつある。日韓両国を包みこむグローバル化の波の中で、お互いの生活文化がどのように変化しているのか。「李さん一家」の生活財調査をふまえて、こうした現象を検証し、生活文化を捉える新たな方法論も模索したい。現代社会におけるグローバル化は、民族学が直面する問題の一つであり、今回の議論を通して、今後の民族学における生活文化研究にどのように貢献できるかについても明らかにしたい。

連絡事項

- シンポジウムは、議論を深める場にしたいと思います。
- 進行は座長におまかせいたします。討論者の方で、時間の都合などにより、その場で発表できなかったご意見、ご質問、あるいは総合討論で議論すべきと思われる項目については、用紙を用意いたしますので、それにご記入のうえ提出してください。
- シンポジウムは、高秀賢さん、高正子さんに同時通訳をお願いし、日韓両国語で行います。
- オブザーバーとしての参加は自由です。
- 第2セミナー室を事務局の部屋としております。
- 当日の配布資料のコピーが必要な場合は、できるだけ早めに事務局に提出してくだ

さい。

シンポジウム参加者（アルファベット順）

<報告者>

朝倉敏夫 ASAKURA, Toshio	国立民族学博物館民族社会研究部教授
周 永河 JOO, Young-Ha	韓国精神文化研究院民俗学助教授
金 柄徹 KIM, Byung-Chul	亜細亜大学国際関係学部助教授
李 熙奉 LEE, Hee-Bong	中央大学校建築工学科教授
中西 啓 NAKANISHI, Hiroshi	京都造形芸術大学空間演出デザイン学科助教授
岡田浩樹 OKADA, Hiroki	甲子園大学人間文化学部助教授
佐藤浩司 SATO, Koji	国立民族学博物館民族文化研究部助教授
鈴木文子 SUZUKI, Fumiko	島根大学教育学部助教授

<討論参加者>

林 史樹 HAYASHI, Fumiki	国立民族学博物館, 日本学術振興会特別研究員
洪 賢秀 HONG, Hyun-Su	科学技術文明研究所研究員
池 倫映 JI, Yoon-Young	梨花女子大学校, 大田大学校講師
金 香来 KIM, Hyang-Le	国立民族学博物館, 日本学術振興会外国人研究員
金 相文 KIM, Sang-Mun	大阪市立北巽小学校教諭
金 時徳 KIM, Shi-Deog	韓国国立民俗博物館学芸研究官
李愛俐娥 LEE, Aelia	国立民族学博物館外来研究員
李 文雄 LEE, Moon-Woong	ソウル大学校人類学科教授
李 善愛 LEE, Sun-Ae	宮崎公立大学国際文化学科専任講師
呉 文仙 O, Mun-Son	韓国精神文化研究院, 漢南大学校講師
大野木啓人 OONOGI, Hiroto	京都造形芸術大学空間演出デザイン学科教授
笹原亮二 SASAHARA, Ryoji	国立民族学博物館民族文化研究部助教授
島村恭則 SHIMAMURA, Takanori	秋田大学教育文化学部助教授
浮葉正親 UKIBA, Masachika	名古屋大学留学生センター助教授
林 慶澤 YIM, Kyung-Taek	全北大学校日文科助教授
吉本 忍 YOSHIMOTO, Shinobu	国立民族学博物館民族文化研究部教授

日程

7月13日(土)

9:45 - 受付

座長：吉本 忍

10:00 - 10:20 石毛直道：館長挨拶

10:20 - 10:30 朝倉敏夫：参加者紹介

10:30 - 11:30 朝倉敏夫：趣旨説明

座長：笹原亮二

11:30 - 12:30 中西 啓：「展示のモダニズム」

12:30 - 13:30 昼食

座長：林 史樹

13:30 - 14:30 佐藤浩司：「李さん一家の生活財調査」

座長：洪 賢秀

14:45 - 15:45 岡田 浩樹：「韓国研究におけるモノ研究と生活財調査」

座長：金 香来

16:00 - 17:00 周 永河：「韓国の生活財調査研究の現況と展望」

17:30 - 懇親会(特別研究室)

7月14日(日)

座長：林 慶澤

10:00 - 11:00 李 熙奉：「アパート空間での〈もの〉配列から見た生活文化の解釈」

座長：金 時徳

11:15 - 12:15 鈴木 文子：「消費文化の浸透と政策と人の選択
——“李さん一家”と離島の生活文化の比較から」

12:30 - 13:30 昼食

座長：李 文雄

13:30 - 14:30 金 柄徹：「文化的存在としての〈もの〉——博物館展示と関連して」

座長：朝倉 敏夫

14:45 - 16:45 総合討論

국립민족학박물관 연구 포럼 촉진 프로그램

2002 년도 국제 심포지움

현대 한국사회의 생활문화 연구와 그 방법

『2002년 서울 스타일——이선생님댁의 살림살이를 있는 그대로』전을 통하여

프로그램

일시: 2002년 7월 13(토)~14(일)

장소: 국립민족학박물관·제4세미나실

심포지움의 취지

2002년 「일한 국민교류의 해」를 기념하여, 본관에서 개최한 특별전 「2002년 서울 스타일——이선생님댁의 살림살이를 있는 그대로」는, 서울에 거주하는 「이선생 일가」가족구성원의 생활공간과, 한국인들의 삶을 17개의 토픽으로 나누어 현재의 한국 사회의 생활 문화를 표현한 것이다. 특히, 이 전시의 기초가 된 「이선생 일가」의 생활재 조사는 현대 한국사회의 집 (이)에 관한 귀중한 데이터이다. 그 3000점에 이르는 데이터는 전시에 최대한 활용 되었으며, 앞으로도 귀중한 자료로서 보존 되어질 것이나, 전시·기록으로 끝내는 것이 아니라, 금후의 연구에 더욱 활용시켜 나가야 할 것이다.

본 심포지움은 지금까지의 생활재 조사와는 다른 「이선생 일가」의 생활재 조사에 의해 얻어진 데이터를, 한국의 물질 문화 연구자를 초대하여, 공동연구 「한국 현대 생활문화의 기초적 연구」의 공동연구원과 함께, 한국사회에 있어서의 생활재조사에 의한 생활문화 연구에 대하여 논의하는 것을 목적으로 한다. 우선, 데이터에서 무엇을 읽을 수 있는가를 검증하고, 그 데이터를 한국사회의 타사례와 비교하여, 집연구에 어떻게 활용시킬 것인가를 검토한다. 이러한 작업을 거쳐 양국연구자에 의한 공동조사 데이터를 보충시킨다면, 금후의 집연구 및 생활문화 연구가 새롭게 전개될 것이다.

일한 양국의 문화는 서브컬처를 회전축으로 하여 급속히 상호 침투되고 있다. 일한 양국의 생활 문화는 글로벌화의 물결 속에서 어떻게 변화되어지고 있는가. 「이선생 일가」의 생활재 조사를 통하여 이러한 현상을 검증하고, 생활문화를 파악하는 새로운 방법론도 모색하고 싶다. 현대 사회의 글로벌화는 민족학이 당면하고 있는 하나의 문제이며, 이번 토론회를 통하여, 앞으로의 민족학 연구의 생활문화 연구에 어떠한 공헌이 가능할 것이기를 밝히고자 한다.

연락사항

- * 심포지움은 심도 있는 논의가 될 수 있는 장으로 만들고 싶습니다.
- * 진행은 기본적으로 진행자에게 맡기도록 하겠습니다. 토론자는 제한 시간에 의해 발표하지 못한 의견이나, 총합토론에서 논의되어야 한다고 생각하는 항목을 기입하여 제출해 주시기 바랍니다.
- * 심포지움은 고수현씨, 고정자씨에게 동시통역을 부탁하였으며, 일한 양국어로 진행됩니다.
- * 업저버로서의 참가는 자유입니다.
- * 제 2 세미나실을 사무국으로서 사용합니다.
- * 당일의 배부자료 복사가 필요한 경우는 가능한 빨리 사무국에 제출해 주시기 바

합니다.

심포지움 참가자 (a, b, c 順)

<報告者>

朝倉敏夫 ASAKURA, Toshio	国立民族学博物館民族社会研究部教授
周 永河 JOO, Young-Ha	韓國精神文化研究院民俗学助教授
金 柄徹 KIM, Byung-Chul	亜細亜大学国際関係学部助教授
李 熙奉 LEE, Hee-Bong	中央大学校建築工学科教授
中西 啓 NAKANISHI, Hiroshi	京都造形芸術大学空間演出デザイン学科助教授
岡田浩樹 OKADA, Hiroki	甲子園大学人間文化学部助教授
佐藤浩司 SATO, Koji	国立民族学博物館民族文化研究部助教授
鈴木文子 SUZUKI, Fumiko	島根大学教育学部助教授

<討論参加者>

林 史樹 HAYASHI, Fumiki	国立民族学博物館, 日本学術振興会特別研究員
洪 賢秀 HONG, Hyun-Su	科学技術文明研究所研究員
池 倫映 JI, Yoon-Young	梨花女子大学校, 大田大学校講師
金 香来 KIM, Hyang-Le	国立民族学博物館, 日本学術振興会外国人研究員
金 相文 KIM, Sang-Mun	大阪市立北巽小学校教諭
金 時德 KIM, Shi-Deog	韓國国立民俗博物館学芸研究官
李愛俐娥 LEE, Aelia	国立民族学博物館外来研究員
李 文雄 LEE, Moon-Woong	ソウル大学校人類学科教授
李 善愛 LEE, Sun-Ae	宮崎公立大学国際文化学科専任講師
呉 文仙 O, Mun-Son	韓國精神文化研究院, 漢南大学校講師
大野木啓人 OONOGI, Hiroto	京都造形芸術大学空間演出デザイン学科教授
笹原亮二 SASAHARA, Ryoji	国立民族学博物館民族文化研究部助教授
島村恭則 SHIMAMURA, Takanori	秋田大学教育文化学部助教授
浮葉正親 UKIBA, Masachika	名古屋大学留学生センター助教授
林 慶澤 YIM, Kyung-Tack	全北大学校日文科助教授
吉本 忍 YOSHIMOTO, Shinobu	国立民族学博物館民族文化研究部教授

日程

7月13日(土)

9:45 접수

座長: 吉本 忍

10:00 - 10:20 石毛直道: 館長인사

10:20 - 10:30 朝倉敏夫: 参加者紹介

10:30 - 11:30 朝倉敏夫: 趣旨説明

座長: 笹原亮二

11:30 - 12:30 中西 啓: 「展示의 모더니즘」

12:30 - 13:30 점심식사

座長: 林 史樹

13:30 - 14:30 佐藤浩司: 「이선생님덕의 생활재조사」

座長: 洪 賢秀

14:45 - 15:45 岡田 浩樹: 「한국 연구에 있어서 사물 연구와 생활재 조사」

座長: 金 香来

16:00 - 17:00 周 永河: 「한국의 생활재조사연구의 現況과 展望」

17:30 - 懇親会 (特別研究室)

7月14日(日)

座長: 林 慶澤

10:00 - 11:00 李 熙奉: 「아파트공간에서 『사물』 배열에서 본 생활문화」

座長: 金 時徳

11:15 - 12:15 鈴木 文子: 「소비문화의 침투와 정책과 인간의 선택

——이선생 일가와 離島의 생활문화 비교에서」

12:30 - 13:30 점심시간

座長: 李 文雄

13:30 - 14:30 金 柄徹: 「문화적 존재로서의 <사물>

——박물관 전시와 관련하여」

座長: 朝倉 敏夫

14:45 - 16:45 総合討論